

海外安全対策情報（2018年10月～12月）

1 社会・治安情勢

カンパラ市、ワキソ県、ムコノ県では暴力事件が増加しています。また、車上荒し及び住居侵入被害も増加しており、犯罪抑止のため警察機関による巡回が強化されています。暴力事件の増加は、特に女性及び子供が被害となっており、2015年28,549件、2016年は31,041件と増加しています。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

(1) 盗難・強盗事件等

ア 邦人被害事案

○10月、イベント会場での置き引き被害が3件発生しました。

○12月、歩行中に強盗被害が1件発生しました。

イ 邦人以外

○ムコノ県 (Mukono)

10月29日カベンベ村の製鉄工場に10人の強盗が侵入し、約90万円分の現金が盗まれました。

○カンパラ市 (Kampala)

11月7日市内にて警察による取締り強化が行われ、渋滞中の車上荒し、スリ、ひったくり犯罪者、約300名が逮捕された。

(2) 殺人事件

○カンパラ市 (Kampala)

10月24日深夜3時頃、44歳のビジネスマンの自宅に強盗が侵入し、刃物で10回以上刺され殺害されました。

11月16日ブゴロビ地区で女子学生が交際相手に自宅で殺されました。

○ワキソ県 (Wakiso)

12月19日キラ地区で14歳の少女が何者かによって殺されました。

(3) 強姦事件

邦人が被害に遭ったとの情報には接していませんが、ウガンダにおいては強姦事件が深刻な問題となっています。また、被害者となる女性の大半が未成年者であり、近親相姦が頻繁に発生しています。

○カラングラ県 (Kalangala)

同県では強姦事件が増えています。毎月平均11件の強姦事件が発生しています。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、ウガンダ政府は近隣国ソマリアの治安向上を目的にアフリカ連合ソマリアミッション (AMISOM) に自国軍を派遣し、ソマリア武装テロ組織「アル・シャバーブ」に対する掃討作戦に参加しています。このため、同組織はウガンダへの反発を強めており、しばしば当国を名指しで報復する旨発言していることから、引き続き注意する必要があります。

また、シリアやチュニジア、バングラデシュで発生した日本人が殺害されるテロ事件をはじめ、ISIL (イラク・レバントのイスラム国) 等のイスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けた者によるとみられるテロが世界各地で発生しています。したがって、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険があることから、このような情勢を十分に認識して、誘拐・脅迫・テロ等の不測の事態に巻き込まれることがないように、渡航情報及び報道等により最新の治安・テロ情報等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心がけてください。

○カンパラ市 (Kampala)

ナムゴンゴ地区で、元 ADF (民主同盟軍) 兵士 9 名がテロ容疑者として逮捕されました。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が誘拐・脅迫される事件は発生していません。しかし、ウガンダにおいては人身売買および身代金を目的とした誘拐事件が多数発生しており、既に、今年に入ってから 100 件以上の誘拐事件が発生しております。特にカンパラ市中心部のオールド・タクシーパークや時計台付近で発生しています。

邦人が巻き込まれる可能性も否定できないため、滞在中は警戒を怠ることのないよう十分注意してください。

○ワキソ県 (Wakiso)

12月3日エンテベ地区で、10歳の少年が自宅から誘拐される事件が発生しました。誘拐犯は約60,000円の身の代金を要求してきました。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的とされる可能性は低いですが、上記「テロ・爆弾事件発生状況」のとおり、テロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険も排除できませんので、十分注意のうえ安全対策を怠らないよう努めてください。

以上